

# 渦中の 農力

(第2回)



菊

佐藤 駿



さとう・しゅん  
男鹿市船越にある  
男鹿・潟上地区園  
芸メカ団地のハウ  
ス3棟(100坪2  
棟、80坪1棟)と露  
地90アールで、約20  
品種の小菊と輪菊  
を栽培する。26歳  
のときに就農し、  
現在30歳。

——就農の経緯や今年の栽培概要  
について伺います。

以前は東京で働いていましたが、  
いつか地元に戻りたいという気持ち  
がありました。父から園芸メカ団  
地の話を聞いたことがきっかけで、  
26歳のときにAターンして就農し、  
今年で5年目です。

小菊をメインに、盆と彼岸という  
大きな需要期に焦点を当てて出荷

しています。面積が増えて作業が集  
中すると大変なため、7月からも  
出荷していて、今年は11月中旬ま  
で行いました。

——新型コロナウイルスの流行に  
よって、花き類の需要の落ち込みが  
心配されていました。

今年はどうなるのかという不安  
はありました。しかし、単価がい  
くらになるのかは、生産者は出荷  
してみないことにはわかりませ  
ん。まずは品質のいいものを作り、  
しっかりと需要期に合わせて出荷  
するように心掛けて、作業に励み  
ました。

——気象などによって菊の生育に  
影響はあったのでしょうか。

ここはとても風が強い場所なの  
ですが、今年台風の影響がなかつ  
たことが幸いでした。ただし、雨  
がとて多かったと記憶していま  
す。その影響で病害虫も多かつた  
ため、例年の倍以上に防除作業に  
時間を費やしました。暑さが続く  
ときは手で水をかける手灌水を行  
うなど、手間がかかったように感じ